

第71回日本心理学会 ワークショップ

宗教心理学的研究の展開(5)

—社会との関わりのなかではたらく宗教心理の可能性—
【宗教心理学専攻者の臨床実践の一例】

岡田 正彦

栃木県立岡本台病院 医務局社会復帰科
主査(精神保健福祉士兼認定カウンセラー)

報告者(話題提供者)の関心

- スウェーデンボルグの世界観
- 病的経験と宗教的経験の諸相とその比較
- セルフヘルプグループとのコラボレーション
(アルコール関連問題ソーシャルワークの一環)

本日の焦点

- スウェーデンボルグの世界観
- 病的経験と宗教的経験の諸相とその比較
- セルフヘルプグループとのコラボレーション
(アルコール関連問題ソーシャルワークの一環)

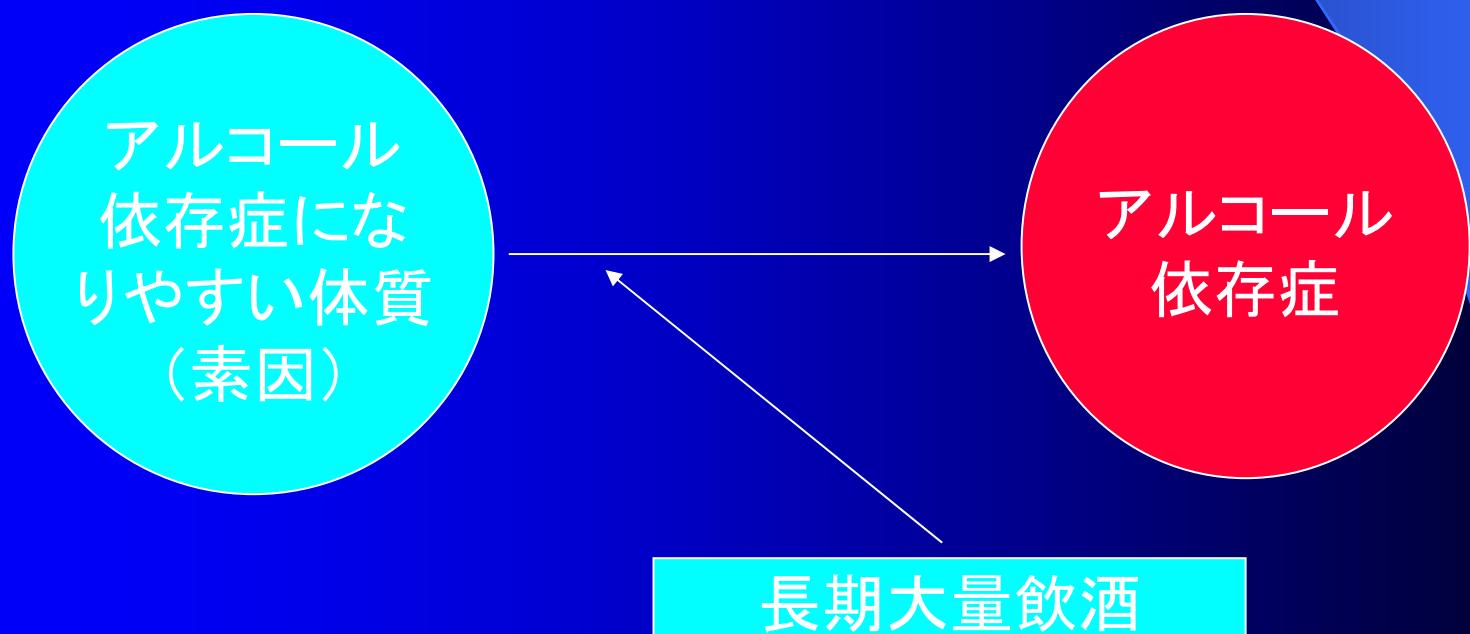
酒類とは？

- 酒屋で販売されているので嗜好品と思われがちであるが、含有されているアルコールは薬物である
- しかも、ニコチン（煙草）同様、合法的ではあるが、歴とした依存性薬物である
- 従って、常用すれば、作用とは別の副作用が生じるのは、必至である

「適正」飲酒概念

- 1日の酒量を1～2単位程度(3単位が限度)に止め、連続して48時間以上の休肝日を設ける飲酒を、日本では「適正」飲酒と称している
- しかし、上述の概念は、WHOより非難され、敢えて言うならば、Low risk drink(危険の少ない飲酒)と訂正されている
- 従って、「適正」飲酒は、存在しない

アルコール依存症とは 【素因+環境要因】



アルコール依存症の診断

- 連続飲酒発作

飲んでは寝て、寝ては飲んでの繰り返しが、48時間以上にわたって、飲まず食わずで繰り返される状態

- 退薬症候群(離脱症状)

イライラ・不安・不眠・発汗・手指の振戦・幻視・幻聴・てんかん様の発作(アルコール離脱痙攣)等

アルコール依存症からの回復

- 断酒の三本柱

- (1) 通院

- (2) 抗酒剤

- (3) セルフヘルプグループ

アルコール依存症からの回復

- 断酒の三本柱

(1) 通院

(2) 抗酒剤

(3) セルフヘルプグループ

(1)通院

アルコール症リハビリテーションプログラム

| 曜日 | 午 前 | 午 後 |
|----|--------------------------|---------------------|
| 月 | ビデオミーティング 第1・3AAメッセージ | 診察 |
| 火 | グループミーティング | |
| 水 | フリープログラム | 家族教室 |
| 木 | ビデオミーティング | 家族ミーティング 断酒会院内例会 |
| 金 | グループミーティング | 診察 |

アルコール依存症からの回復

- 断酒の三本柱

(1) 通院

(2) 抗酒剤

(3) セルフヘルプグループ

(2) 抗酒剤

- シアナマイド
 - ①無色透明、無味無臭の液体。1日あたり10~20CC服薬
 - ②服薬後10~60分で薬効出現し、約12時間~24時間薬効持続
- ノックビン
 - ①白色の粉末。
 - ②1~4日間の連續した服薬で薬効出現し、薬効が出現した後は、服薬が完全に中止されても、3~5日は薬効持続

アルコール依存症からの回復

- 断酒の三本柱

(1) 通院

(2) 抗酒剤

(3) セルフヘルプグループ

(3)セルフヘルプグループ

- AA (Alcoholics Anonymous)

1935年(昭和10年)、米国オハイオ州アクロン市において、二人のアルコール依存症者、即ち、ビル(株のブローカー)とボブ(外科医)が出会い、AAが創設される。日本においては、1975年(昭和50年)、東京にて、AAのミーティングが初めて日本語で実施された。詳細はHP参照。

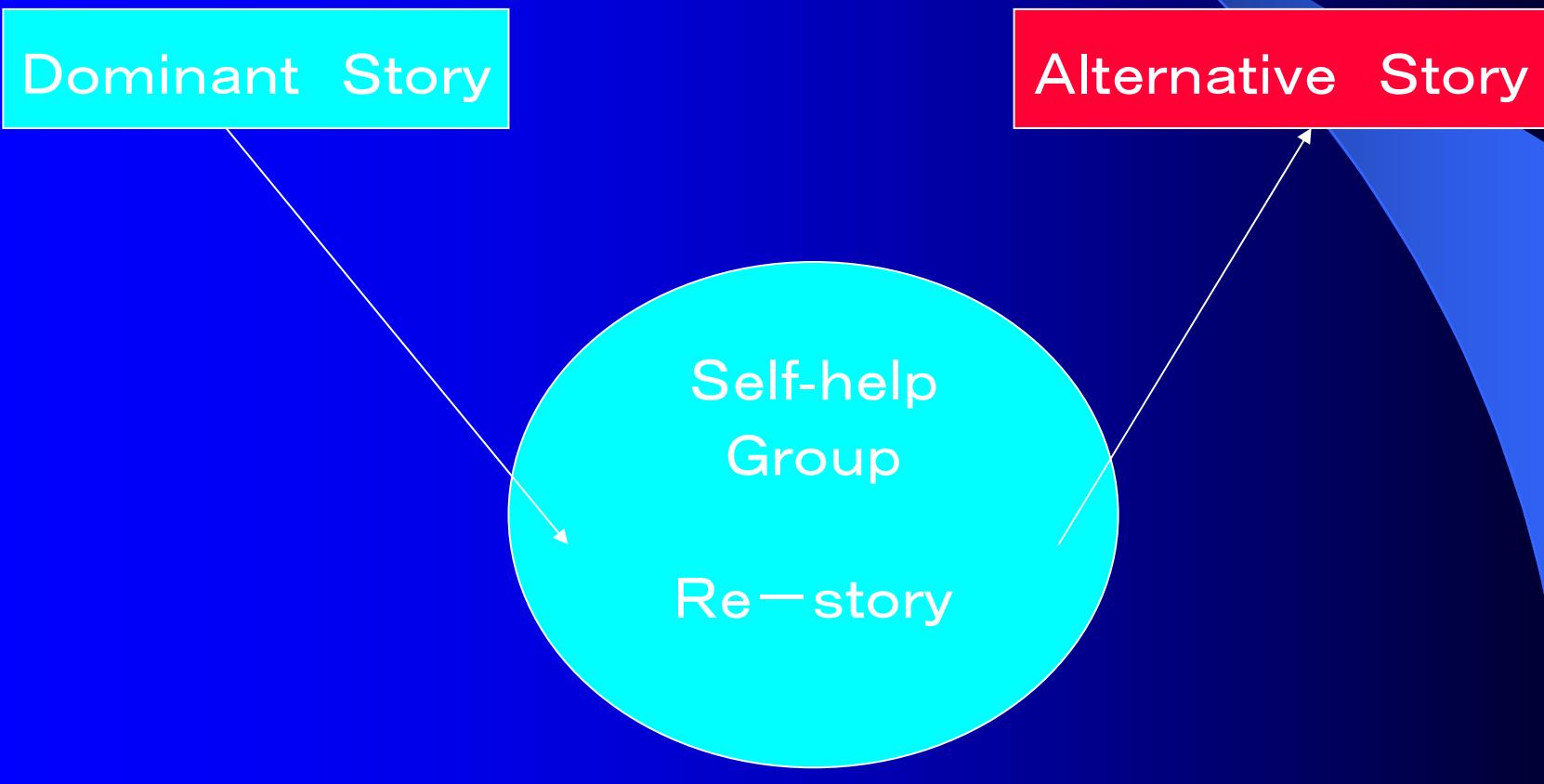
<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>

- 断酒会

1957年(昭和32年)に東京断酒新生会が、1958年(昭和33年)に高知県断酒新生会が ほぼ同時に、それぞれ発足される。1963年(昭和38年)、東京断酒新生会と高知県断酒新生会が合流し、現在の全日本断酒連盟が結成され、1970年(昭和45年)に社団法人全日本断酒連盟として認可された。詳細はHP参照。

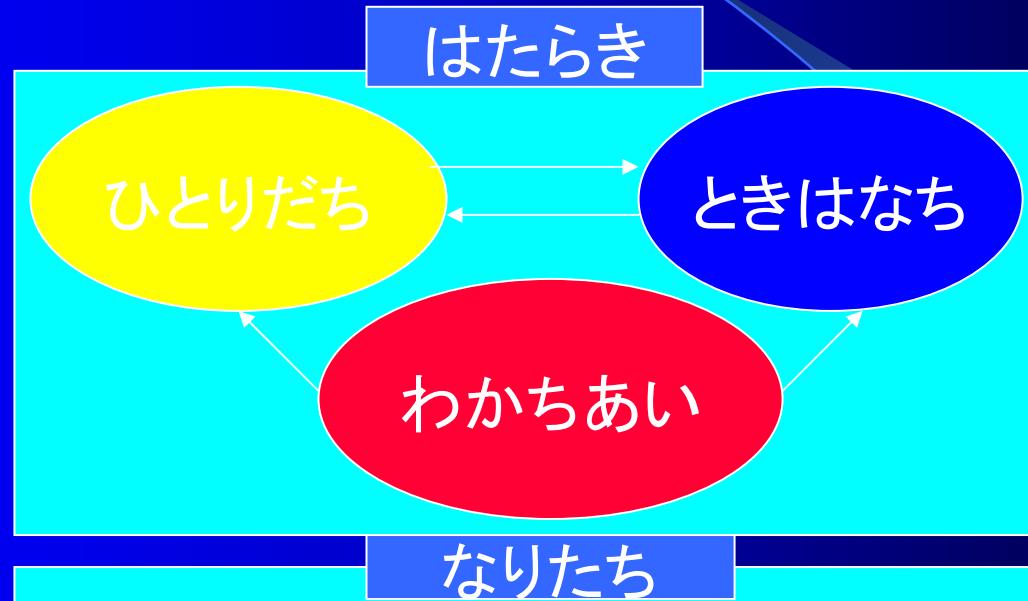
<http://www.dansyu-renmei.or.jp/>

ナラティブアプローチからみた セルフヘルプグループの効果



セルフヘルプグループの機能と役割

(岡 知史『セルフヘルプグループ』星和書店 1999年2月10日 発行 参照)



体験の
共通性

参加の
自発性

活動の
継続性

セルフヘルプグループとの コラボレーション

- セルフヘルプ・クリアリング
ハウス(とちぎセルフヘルプ
情報支援センター:TSHC)
- とちぎアディクションフォーラム実行委員会

セルフヘルプグループとの コラボレーション

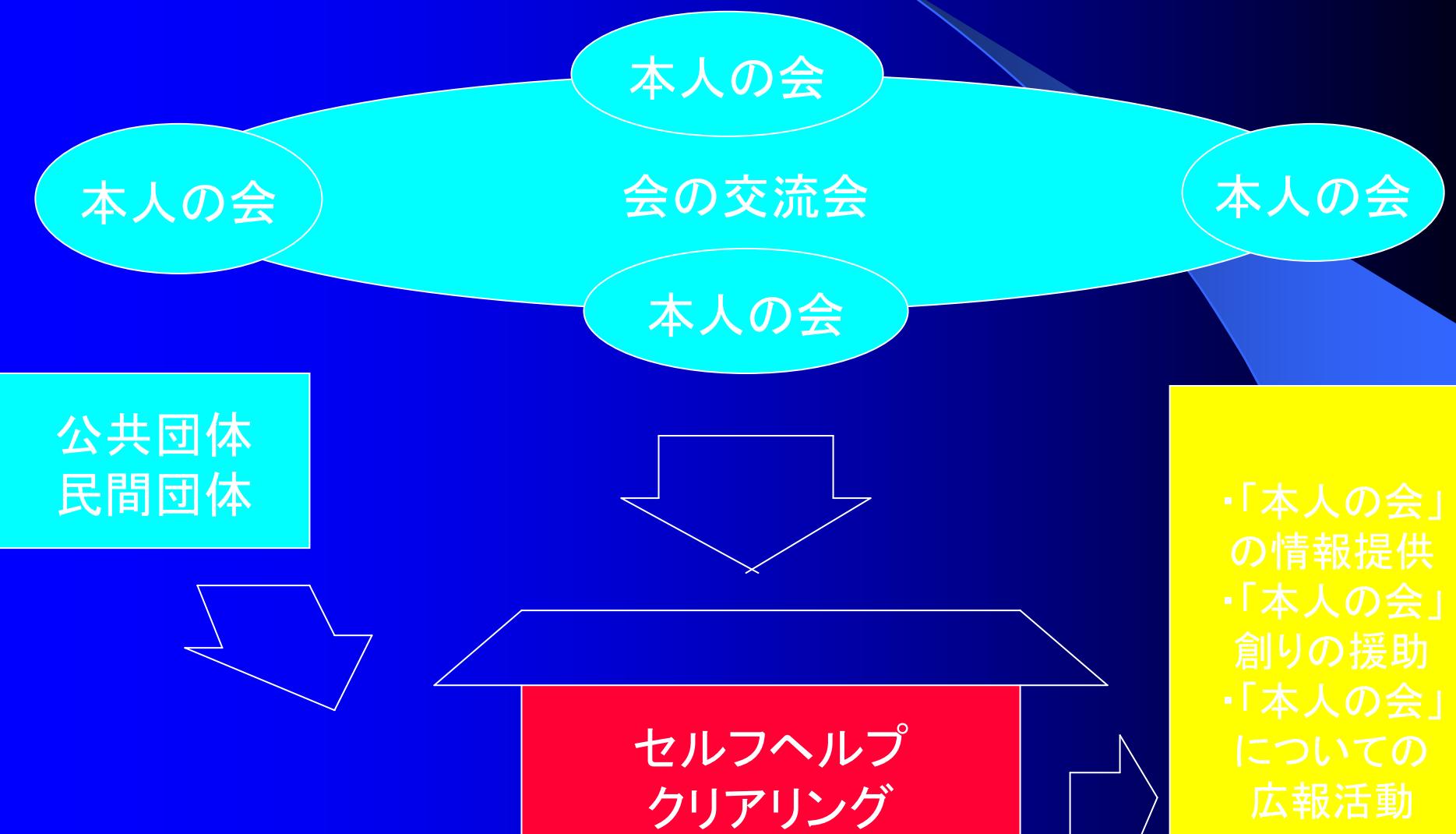
- セルフヘルプ・クリアリング
ハウス(とちぎセルフヘルプ
情報支援センター:TSHC)
- とちぎアディクションフォーラム実行委員会

セルフヘルプグループとの コラボレーション(1)

- ・セルフヘルプ・クリアリングハウスマッチング

セルフヘルプ・クリアリングハウスの機能

(岡 知史 『セルフヘルプグループ』 星和書店 1999年12月10日発行 図8 引用)



とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助
- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その1)

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助
- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その1)

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
1. 電話:028-621-7661(毎週土曜日午後1時~5時迄:2003年4月より実施)
 2. FAX:028-621-7661(隨時)
 3. Eメール:tshc@blue.forum.ne.jp
 4. 手紙等:〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田2-5-1
共生ビル2階とちぎボランティアネットワーク内
 5. 面接(要予約)

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その2)

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助
- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その2)

- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助

マッチングシステム：電話相談等で、まだ県内に設立されていないSHGを希望する方がいらっしゃった場合、連絡先等を御本人の許可の下、登録していただき、共通する生きづらさを有する方々からの相談が再びあった段階で、TSHCにお集まりいただき、グループの設立について相談していただくシステム。このシステムを利用して、うつ病や摂食障害、ひきこもりの御本人のグループやひきこもりの親の会等が設立されている。

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その3)

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助
- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その3)

- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
 1. とちぎセルフヘルプセミナーの開催(過去14回開催)
 2. とちぎセルフヘルプ情報支援センターボランティア養成講座の開催(過去2回開催)
 3. とちぎセルフヘルプカレッジの開催(過去3回開催)

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その4)

- 県内における様々なセルフヘルプグループ(以下SHGと略記)に関する情報の把握並びに整理と、SHGを必要としている県民への的確なSHGに関する情報提供サービス
- 県内における様々なSHGの設立に関する支援並びに技術援助
- 県民へのSHGに関する教育、知識の普及・啓発事業
- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その4)

- 県内の各SHGの間の情報交換の支援

第8回とちぎセルフヘルプセミナー(2003年8月10日実施)において、「発達障害児者親の会の可能性」と題して、県内の発達障害児者を持つ家族会に一堂に会していただき、意見交換等を、「体験発表」を通して実施することを試みた

とちぎセルフヘルプ情報支援センター (通称TSHC)の役割と機能(その5)

- その他の役割と機能

第1回セルフヘルプ・クリアリングハウス全国大会開催(トヨタ財団の助成を受け、2003年11月1日～2日迄ハートピアきつれ川においてTSHCが主催し、開催)

参加SHC: 大阪セルフヘルプ支援センター

クリアリングハウスMUSASHI

ひょうごセルフヘルプ支援センター

横浜市女性協会横浜女性フォーラム

かながわボランティアセンター

STIALISH宮崎セルフヘルプ情報支援センター開設準備室

ヤルフヘルプ・北九州開設準備室

セルフヘルプグループとの コラボレーション

- セルフヘルプ・クリアリング
ハウス(とちぎセルフヘルプ
情報支援センター:TSHC)
- とちぎアディクションフォーラム実行委員会

セルフヘルプグループとの コラボレーション(2)

- とちぎアディクションフォーラム
実行委員会(TAF)

とちぎアディクションフォーラム 実行委員会(TAF)の目的

- 当委員会は、アディクションに関する正しい知識の普及・啓発活動を通して、セルフヘルプグループと協働しながら、アディクション関連問題からの回復を支援することを目的とする(「とちぎアディクションフォーラム実行委員会規約」第2条【目的】より抜粋)

とちぎアディクションフォーラム 実行委員会(TAF)の活動

- 2003年6月22日：第1回とちぎアディクションフォーラム「依存症からの回復～わかっちゃいるけどやめられない。でも…」
- 2004年6月13日：第2回とちぎアディクションフォーラム「依存症からの回復～仲間とのわかつあいを求めて」
- 2005年9月11日：第3回とちぎアディクションフォーラム「とらわれからの解放、新しい生き方へ」
- 2006年10月1日：第4回とちぎアディクションフォーラム「アディクションとは何か」